

■教育目的

薬局の社会的役割と責任を理解・自覚し、地域医療にプロフェッショナルとして積極的に参画できるようになるために、保険調剤、医薬品などの供給・管理、情報提供、健康相談、多職種や地域との継続的な関わりについての基本的な知識、技能、態度を修得する。

さらに、全実習期間を通じて実質的に薬剤師業務に携わることが出来ることを確認する。【卒業認定・学位授与の方針：YD-①～⑥】

基本的なプレゼンテーション能力の修得

■学習到達目標

1. 薬局で取り扱うアイテム(品目)の医療、保健・衛生における役割を理解し、それらを適切に取り扱うことが出来る(知識、技能)
2. 医薬品の適正使用に必要な情報を提供するために、薬局における基本的な医薬品情報管理や、必要に応じた提案をすることが出来る(知識、技能、態度)
3. 薬局における保険調剤を適切に行うために、調剤、医薬品の適正な使用、リスクマネジメントに関する説明や必要に応じた疑義照会や提案が出来る(知識、技能、態度)
4. 地域社会での健康管理のために、患者、顧客の適切な接遇・対応が出来る(知識、技能、態度)
5. 地域に密着した医療体制のために、在宅医療、多職種との医療連携、地域福祉、災害時医療、地域保健などを理解し、行動することが出来る(知識、技能、態度)
6. 発表資料の作成ならびに効果的なプレゼンテーションをすることができる(知識、態度、技能)

■準備学習（予習・復習）

予習：汎用医薬品について知識を整理しておく。ループリックを読み込んでおく。(30分以上)

復習：実習した内容を想起し、実習中の疑問点等について調べ、確認しておくこと。(30分以上)

■授業形態

プレゼンテーション、実習・フィールドワーク

■授業内容

薬学実務実習オリエンテーションから実習報告会までの取組姿勢を対象としている。

No.	項目	授業内容	備考・SBOコード
実習前	学内オリエンテーション	医療人となるための実習心構え	F(1) ②
1～11	各実習施設にて指導薬剤師指導のもと実習	モデル・コアカリキュラムに沿って実習	F(1) ③ F(2) ①～⑥ F(3) ①～④ F(4) ①② F(5) ①～④
実習後	学内報告会	実習報告会(薬局・病院の地域における役割と連携の在り方)	F(1) ②③ F(2) ①～⑥ F(3) ①～④ F(4) ② F(5) ①～④

■課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

実習中の基本取組態度(25%)、薬局の指導薬剤師による所見・評価(25%)、実習記録の内容・担当教員との事前・事後面談(25%)、実習報告会での発表(25%)に対し、医療人を目指すためのプロフェッショナリズムの観点から総合的に判定する。

■その他

*全実習期間を通し薬剤師業務業務に実質的に携わることが評価の要件です。

*実習施設により、内容が多少変更される場合があります。

*指導薬剤師による評価はループリックに基づいて行う。